

## 2014年9月21日 礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書 18章 18～30節

説教：何をしたらよいのでしょうか

### 1 ある役人

#### 1) 悩み

今日の箇所は、ある役人がイエスに質問をする場面から始まります。話の内容から、おそらくこの人は伝統的な由緒ある家庭に生まれ、立派な教育を受け、世の中のエリートコースを歩んできたものと思われる。世の人々が求めて止まない地位、名誉、財産、家柄、教育、権力、ありとあらゆるものを手にしております。

そんな人がわざわざイエスを訪ねてきて、このように質問しました。「尊い先生。私は何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるのでしょうか。」

#### 2) これらの律法は守っています

役人の質問に対し、イエスはこのように言います。「戒めはあなたもよく知っているはずです。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。父と母を敬え。』」

ご存じのとおり、これらはすべてモーセの十戒のなかにあります。役は自信をもって答えました。「そのようなことはみな、小さな時から守っております。」

これらのことばから、この人の信仰がどんなものであったかわかります。永遠のいのちを手に入れるためには、自分がなにかをしなければならない。そう思い込んでいます。そんな信仰をもって今日まで一生懸命ががんばってきました。けれども、がんばればがんばるほど永遠のいのちを手に入れているという実

感が遠のいていきます。空回りした状態です。心の中にぽっかりと穴が空いたようなむなしさが襲って来ました。まだ何かすべきことがあるのではないかと自分で考えても答えはわかりません。どうしたらよいのか、誰も納得できる答えを教えてくださいません。苦しみはますます深いものとなっていきました。

富や名声などほとんど関係がない、そんな人たちから言わせれば、この役人が悩みはなんと贅沢なことかと思うでしょう。でも、ほかの人がなんと言おうとも、苦しくてどうしようもないのです。わらをもつかむ思いでこの役人はイエスのところに来ました。

### 2 イエス

#### 1) どうして厳しいことを言うのか

イエスは、こう言います。22節。「あなたには、まだ一つだけ欠けたものがあります。あなたの持ち物を全部売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすればあなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」すると彼は、これを聞いて、非常に悲しんだ。たいへんな金持ちだったからである。」

当時、イエスは保守的な人たちから危険人物と思われていました。高い地位にある者は当然、そんな危険人物に近づくようなことはしません。もしそんなことをしたなら、世間から強い非難を受けるリスクがありました。にもかかわらず、役人はイエスのところにやって来ました。だったらイエスほもっと心から歓迎すべきではないか。ところが、どう

ですか。イエスはこの人が悲しむような厳しい命令をされるのです。こんな歓迎の仕方があるのでしょうか。役人のことを嫌っているようにさえ感じてしまいます。

まとめると二つの疑問があります。一つ目。どうしてイエスはこのような厳しい事を言ったのだろうか。何のためにこう言ったのか。そして二つ目の疑問。この役人は結局救われたのか、それとも救われなかったのか。

## 2) 「欲しがってはならない」

まず一つ目の疑問から見ます。イエスはどうして全財産を売り払いなさいと言ったのか。考えるヒントは20節にあります。これらはすべてモーセの十戒に含まれている命令でした。けれども、よく見ると一つだけ抜かしている戒めがあるのです。何か抜けているか。十戒の十番目の戒めです。「あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

この役人は、自分が持っている財産はすべて自分のものであると考えています。でも神の目から見るとどうでしょう。神がすべて与えたものではないですか。すべての人間は生まれたとき裸でした。何も持っていない。もし今何かを持っているというのなら、それはあなたが働いて手に入れたものと思っ

ていますが、実は神が与えてくださったものです。十戒にある「隣人」というところを、全部「神」と言い換えたらどうですか。神であるイエスがすべてを捨てなさいと言われました。あなたの隣人である神の財産を欲しがってはならないのです。もしそれがいやで自分のものとしてしまうなら、神のものを自

分のものとするのですから、盗むこととなります。役人は、9番目までの戒めは完全に守っているという自信を持っていました。けれども十番目の戒めはどうか。あなたは守ることができるのか。イエスはそのように問いかけてきました。

役人はどうしたか。反論できません。おそらく、すでにこの人はそうすべきではないのかとうすうす気がついていただろうと思います。もっとも触れてほしくない所を突かれてしまったのです。黙って下を向いて悲しんでいきます。全財産を売り払うことなど絶対にできない。何不自由なく裕福な生活をしてきました。それなのに、全財産を売り払ったらどうなるか。家族全員が着の身着のまま路頭に迷います。絶対にそうはなりたくない。そうすると十番目の律法は守れない。認めざるを得ませんでした。

役人は最初自信をもって答えました。「私はできます。努力しています。がんばっています。律法は全部守っています。」鏡にはすばらしい自分がうつっているように思っていました。しかしイエスのことばによって、本当の自分の姿を見せられてしまいました。鏡をよく見たら、どんなにがんばってもできない自分がいたのです。「見たくないものは見えない。」私たちは無意識にそんな行動をしています。しかしイエスは、見たくないものに光を当て、見たくないけれども見えるようにされます。

イエスがあえて厳しいことを語ったのはそのためでした。

## 3 すべてを捨てるイエス

### 1) 誰が救われるのか

さて、この役人は永遠のいのちをいただき、

救われたのでしょうか。それとも救われなかったのでしょうか。どちらだと思いますか。イエスがこうしなさいと言われたのができなかった。ならば当然この人は救われたい、と考えますか。あるいは、この場面ではイエスに従えなかったけれど、後になって従っていったのではないかと、希望的観測をしますか。いったいどっちだったのか。最後に考えていきます。

イエスは追い打ちをかけるようにこう言われます。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」これを聞いただけでも驚きですが、29節にはもっと極端なことが書かれています。「神の国のためには、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てなければならぬ。」もし本当にそうだとするのなら、教会に来る人たちはまず家族を捨てなければならぬはず。もちろん誰もそんなことはしません。ではイエスは何を言いたいのか。

## 2) 捨てていく歩み

いつも言うようですが、イエスが激しいことを語るときは、いつもそこに恵みが必ず備えられています。役人は信じていました。永遠のいのちをいただくためには、一生懸命神さまの命令を守るように努力しなければならぬ。けれどもイエスに指摘されました。「あなたはどんなにがんばっても守れないことがあります。」役人は認めざるを得ません。永遠のいのちを手でできない、そう思っ

て悲しみました。私たちはこれを読んで何を学びますか。この役人ようになってはいけません。私たちは、自分の持っているものを売り払って貧しい

人に分け与えるべきである。皆さんはもっともっと教会に献金すべきである。はっきり言いますが、そんなことを言っているのではありません。

まだわかりませんか。イエスが何を言いたかったのか。神の律法を守ろうとしても絶対に守ることができない。私たちはそのような者なのに、いつまでがんばろうとしているのか。はやく白旗を振って降参しなさい。そう言っているのです。

役人はこう思っていました。「救われるためには、自分が何かをしなければならない。」でも、それはあのパリサイ人の祈りとまったく同じことです。イエスは誰を義とされましたか。先週触れました。「神さま。私は律法を守れない罪人です。こんな私をあわれんでください。」このように言った取税人を義とされ、取税人が救われました。ということは、イエスは何を待っているのですか。何かをすることではなく、何もできない者だと告白すること。それを待っておられます。

では、イエスはどうされるのでしょうか。私たちができなくなっていることを、イエスが代わりにして下さいます。捨てることができないうる私たちの代わりに、この方がご自分の持っているあらゆるものを捨ててくださり、最後はいのちまでお捨てになりました。いや、その前に世の中から捨てられていくのです。そうやって、私たちに永遠のいのちを与えようとされます。「人にはできないことが、神にはできるのです」とは、このようなことです。

最後に確認します。あの役人はどうなったと思いますか。永遠のいのちをいただくためには何をすべきか、そのことを尋ねるためにイエスのところにやって来ました。決して門

前払いしたわけではありません。イエスから厳しいことばを聞いて、この人は、「私は出来ない者です」と悲しましました。イエスが求めておられたのはそのことでした。あの取税人の祈りと同じ所に導かれたのです。ということはどうなりますか。この人は救われたのです。

金持ちが救われると聞いて、複雑な思いになりますか。嫉妬しますか。不公平だと言いますか。神さまは、私たちがねたみたくなるほどに、あらゆる人たちを救いたいと考えています。